

第4回 あがたの森ストリートデザインワークショップ開催記録

1. 開催概要

(1) 開催日時

令和7年12月21日(日) 18:30~20:40

(2) 開催場所

松本市美術館 1階市民アトリエ・講座室

(3) 出席者

計32名

(4) 次第

- 1) 開 会
- 2) 前回の振り返り
- 3) 再整備計画の素案の検討
- 4) 次回以降の予定
- 5) 閉 会

(5) 配布資料

- ・資料1 経過及び本日のワークの進め方
- ・資料2 あがたの森通り再整備計画(素案)



2. 前回の振り返りと再整備計画素案の説明

事務局から、第4回資料1により第3回までのワークを振り返り、4つのテーマごとに意見を整理したあがたの森通りで実現したいことの取組と、実現するための課題や必要なことの内容を確認。その内容をもとにまとめた、あがたの森通り再整備計画の素案を、第4回資料2にて説明した。

3. 再整備計画素案の検討

再整備計画の素案に整理した、以下4つのテーマごとの再整備方針の内容（実現を目指す取組の方向性と、実現に向けた課題）について、共感・賛同、追加したいこと（課題や提案）の意見を共有するグループワークを行った。

【テーマ1】 より安全で快適な道づくり

【テーマ2】 居心地の寄り道端づくり

【テーマ3】 水と緑を感じる道づくり

【テーマ4】 三ガク都を表現する統一的な空間デザイン

ワークはテーマごとに、1ターン15分で時間を区切りながら、以下のタイムスケジュールで実施した。

ターンⅠ	18:55-19:10 (15分)	
		入替 (5分)
ターンⅡ	19:15-19:30 (15分)	
		入替 (5分)
ターンⅢ	19:35-19:50 (15分)	
		入替 (5分)
ターンⅣ	19:55-20:10 (15分)	



(1) ワークの概要

【グループワーク】 各テーマ 15分 × 4ターン

① 各自の意見の書き出し (5分間)

再整備方針ごとに整理した、実現を目指す取組の方向性と、実現に向けた課題に対し、「とくにこんな点に共感・賛同できる」あるいは「自分がこう関わってみたい」などの意見をピンク色の付せんに記入し、「さらにこんな取組の方向性もある (必要)」、「こんな課題もある」などの意見を黄色の付せんに記入した。

② グループ内での意見の共有・整理 (10分間)

各自で意見を書き出した付せんを、ワークシート (再整備計画素案の4~7ページをそれぞれA0サイズに拡大したシート) 上に貼り付け、整理しながら、グループ内で意見を共有し、議論を深めた。2ターン目以降は、前の班の意見も確認しながら、意見の追加を行った。

【全体での意見共有】

再整備方針に対して出された主な意見を、各テーマ担当のスタッフが3分程度で紹介し、全体で意見の共有を図った。

(2) グループワークの結果 (再整備計画の素案に対するテーマ別の意見整理)

- | | | |
|--------|---------------------|----------|
| 【テーマ1】 | より安全で快適な道づくり | →p.4~7 |
| 【テーマ2】 | 居心地の寄り道端づくり | →p.8~11 |
| 【テーマ3】 | 水と緑を感じる道づくり | →p.12~15 |
| 【テーマ4】 | 三ガク都を表現する統一的な空間デザイン | →p.16~19 |

テーマ1 より安全で快適な道づくり

全方針共通

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
共通	・ 前提 歩道を広く	◎
	・ 道路整備の基本の「キ」なのでテーマ1全般に賛同	◎
	・ 提案・協力できるもの 細部にわたっての意見集約・整理ご苦労様です。これだけまとめてあれば特に追加するものはありません。 ≪参考≫私は信州野鳥の会の顧問という立場にあり、カラス・ムクドリ等のアドバイスができます	◎
	・ 具体的な整備の順番（スケジュール） 方針1→2→3→4	△

方針1 自転車通行帯の連続性確保と通行の安全性確保

取組の方向性・課題	意見	分類
① 自転車通行帯未整備区間の整備	・ 東京都のように（ 車 自転車 歩道 ）	◎
	・ 自転車の通行帯整備は重要	◎
	・ 路面の整備	◎
	・ 自転車の曖昧な利用が車両と事故になる	△
	・ 自転車がとめられる場所	△
	・ 現在の道路状況を見ると、自転車通行を大きく工夫しない限り、プランの実行は無理だと思う	△
② 自転車通行帯を含む路面の平坦性の確保	・ 平坦性の確保	◎
	・ 自転車通行帯を含む路面の平坦性の確保	◎
	・ 自転車通行帯を含む路面の平坦性→西の方の段差をなくす	◎
	・ 自転車通行安全確保	◎
	・ 自転車の安全確保（特に学生）	◎
	・ 凹凸を解消することは、全ての人にとって歩きやすくなる→デザイン性も高いと更によい	△
	・ 高齢者の歩きやすい道路	△

テーマ1 より安全で快適な道づくり

方針1 自転車通行帯の連続性確保と通行の安全性確保

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
自転車利用者への交通ルールとマナーの周知徹底	・ 高校生の自転車マナー向上	◎
	・ 自転車利用者のルール	◎
	・ 店 歩道 自転車 とはいえ歩道に自転車が来るので誘導	△
	・ 自転車のルールが曖昧なので標識などで示す	△
	・ 自転車利用の法改正を受けての標識などの整備が必要	△
	・ 自転車マナーの向上に向けた具体策（計画）学生？一般・子ども	△
	・ 車のマナー	△
路上駐車対策と沿道店舗利用者の駐車ルールの明確化	・ 松山市のように 車 荷さばき	◎
	・ 路駐できるスペースを路端に確保 民地	◎
	・ 路上駐車対策については完全にルールを守るべく実行をする必要がある	◎
	・ 駐車スペースの定点確保	△

方針2 歩行空間のユニバーサルデザイン化

取組の方向性・課題	意見	分類
① 縦断勾配・横断勾配の改善(車いす、キャリーケース利用者への配慮)	・ 段・傾斜の低減	◎
② 歩道の拡幅整備(車いす同士のすれ違いに支障のない有効幅員の確保)	・ 歩道の拡幅整備→ゆっくり歩く仕組み	△
	・ タイル・インターロックの大きさ確保 キャリー大変	△
	・ 歩道に信号か横断歩道が整備されてほしい	△
a ユニバーサルデザインの視点による現状把握調査の実施	・ 視覚障がい者への配慮 障がい当事者へのヒアリング	△
方針2 全般	・ 東西の22m幅員の道路と交差する南北の細い動線の出入り口に大型緊急車両が進入しやすくすることと、歩行者の安全性の両立を図ってほしい	△
	・ 歩道の整備を細かく詰める必要あり	△

テーマ1 より安全で快適な道づくり

方針3 グリーンインフラによる雨水管理と浸水対策の強化

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
① 透水性舗装の導入(歩道部、オープンスペース等)	・ 透水性舗装に賛同	◎
	・ 透水性舗装	◎
	・ 透水性舗装は絶対に実現してください	◎
	・ 透水性舗装の導入 →いつ・どこまでやるのか認識共有	△
	・ 透水性舗装⇔デザイン統一と優先順位をつける必要がある？	△
③ 雨水の浸透・貯留機能を有する植栽帯（雨庭など）の整備	・ 浸水対策強化	◎
	・ 雨水の浸透機能を確保	◎
	・ 雨水の浸透・貯留機能の確保	△
b 浸透・貯留機能を持つ植栽帯の拡幅及び必要な資材・設備の導入	・ 第三地区町民長会でこの件の説明があった時、道路の除草や落葉の処理、水辺を作るとしたら、その管理を町民に丸投げされても困る（高齢化等のため） この手の意見が数町民の町民長から要望があった	◎
	・ 道路の除草は本来道路管理が行うべきですが問題あり	△
	・ 雪 除雪どこに	△
レインガーデン等の計画的配置+雨水の浸透・貯留機能を有する植栽帯の整備	・ グリーンスポット整備とレストスペースはリンクさせた方がよい	◎

テーマ1 より安全で快適な道づくり

方針4 夏場の暑熱対策と景観・快適性の向上

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
① 休憩所の配置(屋根付きベンチ、木陰との組み合わせ)	・ 夏場の通りとしての快適性向上	◎
	・ 夏場の暑熱対策 屋根付きベンチ 木陰 イイネ	◎
	・ 緑陰の形成	◎
	・ 休憩所の配置	◎
	・ 交差点に日陰がほしい	◎
	・ バス停 バス待ち バス利用者以外もOK	◎
	・ 緑陰と信号の関係性	△
	・ 民有地への協力依頼	△
②通りの南北軸を考慮した戦略的な街路樹配置(緑陰の形成)	・ 戦略的な樹木配置	◎
	・ 「南北軸を考慮」がよくわからない	△
a 通り沿いに点在するバス停留所11箇所を休憩所として活用	・ バス停の緑陰→統一性	◎
b 沿道建物の配置と日射による南北の歩道環境の違いを踏まえた街路樹配置計画	・ 冬場の対策（除雪・凍結防止等）	△
d ミスト装置等の暑熱対策設備の導入検討	・ 打ち水的なもの	◎
	・ 打ち水的にただ流れていても？	◎
	・ 暑さに対応したアスファルト	△
	・ 湧水や流水の利用ができればと思う 夏の涼しさ	△
	・ 暑熱対策強化 ミストシャワー・公共施設のクールシェア	△
暑熱対策とバス停留所（休憩所）の組み合わせ	・ （休憩）スポットの提示をしなければ歩いてもらえない	◎
	・ 各バス停の時間別・曜日別・利用者別の運行情報がほしい バス停の活用に欠かせない要素だと思う	△
	・ ムクドリとのお付き合い	△

テーマ2 居心地の良い道端づくり

方針1 居心地の良い滞留空間づくり

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
① 沿道民有地のオープンスペースを活用したポケットパーク整備	・ オープンスペースを特定の場所に設ける 音楽・芸術の場も含めて	◎
	・ 居心地の良い滞留空間作り	◎
	・ エディブルガーデン 都市型農園 実現したい	◎
	・ 誰もが立ち寄りたくなる ポケットパーク整備	◎
	・ 居心地の良い空間作りのためには、車・自転車の通行について思い切った工夫が必要	△
	・ 民有地+公共施設用地も	△
	・ ポケットパークの見直し 市民によるワークショップ	△
	・ 民有地所有者+町会とは連絡を密に	△
	・ 民間投資への関わり合い	△
② 歩道とオープンスペースの一体的な空間形成	・ 木陰 テント（日除け）	△
④ バス停の多機能化：休憩機能、給水機能、緑化、統一デザイン（バスまち空間の魅力化）	・ 夏に日陰のないバス停で待つのは辛いので、ベンチや日陰があると嬉しい	◎
	・ 「バス待ち空間」の魅力向上はいいですね	◎
	・ バス停の多機能化	◎
	・ バス停の多機能＝テーマ1～4を網羅	◎
	・ バス停の件 バス停の多機能化に全く賛同	△
	・ バス待ちでない皆さんにも「使っていいよ」をどう促すか（バス運行に支障ないように）	△
	・ バス停を立ち寄れる場所に	△
	・ バス待ちしつつ並べる場所	△
	・ バス優先道路（路線）はできるか	△
	・ 冬の夕方・夜でもわかるよう照明を	△
	・ 高速バス待ちの際、私有地への侵入あり（腰かけ）	△
	・ 休憩機能 給水機能 緑化に賛成 場所の選定	△
	・ 情報発信+収入化（維持管理費用に充当）	△

テーマ2 居心地の良い道端づくり

方針1 居心地の良い滞留空間づくり

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
⑤ オープンテラス・カフェ設置のための制度活用	・ オープンテラスカフェ設置	◎
	・ オープンテラス→店舗がオープンになることで、外国のように賑わうまちになる	◎
	・ どのようなものになるかわからないので何とも言えないが、既存のカフェなどとの兼ね合いはどうなるのか	△
⑥ ベンチやプランター等のストリートファニチャーの導入（県産材の活用）	・ 暫定的な段差解消に有効（社会実験）	◎
	・ ベンチの導入	◎
	・ ベンチ →県産材の利用 松くい虫対策の材木の利用	◎
	・ ベンチは木陰の下にあったらいいな	△
	・ ベンチの供給	△
	・ ベンチやプランター等ストリートファニチャーの導入は現在の道路幅では無理ではないか、アイデアは賛成ですが	△
オープンスペースの活用+ストリートファニチャー	・ オープンスペース・ポケットパーク整備 飲食店	◎
	・ 案内の充実	◎
	・ イベントや要望を踏まえた自社整備	◎
オープンスペースの活用+グランドレベルの開放	・ 回避性の向上 外国人観光客にもわかりやすく	◎
バス停の多機能化+交通事業者との調整	・ 将来的にAI無人運転バスが導入される際に、安全と利便性が両方とも担保されるようなバス停のデザインが必須となる	△

方針2 賑わいと回遊性の向上

取組の方向性・課題	意見	分類
① 横丁・横道への誘導サイン(案内板、路面表示等)の設置	・ 横丁→サイン	◎
	・ 基本的に日本語と英語に統一（多すぎるとよくない）	△
	・ 回遊しやすくするしくみづくり →海野宿のスタンプラリーはすべて巡ると絵葉書ができあがる	△
	・ 日本語と英語のみ、生活者が主体	△

テーマ2 居心地の良い道端づくり

方針2 賑わいと回遊性の向上

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
② 沿道各所のスポット間を結ぶ連続的な仕掛けづくり(舗装デザイン、サイン)	・ 回遊性、連続性	◎
	・ サイン、案内	△
③ 回遊マップの作成・配布	・ 回遊マップの作成配布	◎
	・ 回遊マップ、どこで配布する	△
	・ 日本語だけでなく外国人向けにも	△
	・ マップの目的の明確化	△
	・ 標示が多いと見えなくなる	△
④ 通り全体での沿道イベントや社会実験の開催	・ 通り全体での沿道イベント、いいね	◎
	・ 社会実験の繰り返し+住民も必ず入れる	◎
	・ にぎわい、イベント先行にならないような多軸の評価、指標が必要	△
連続的な仕掛け+回遊マップの作成+イベントの開催	・ MAPの作成、イベントの仕掛け	◎
	・ MAPにも歩いてもらう仕掛け、イベントは包括的な主体者が必要	△
	・ スタンプラリーみたいなのがあれば楽しそうだし、観光客も増えそう	△
	・ 旧制松本高校出身の熊井啓、県ヶ丘高校出身の山崎貴、二人の監督の作品解説を沿道に配置することで「文化資本」として活用すると観光客にも地元民にも広く周知できると思う	△
方針2全般	・ 立ち寄りたくなる道端、いいね	◎
	・ サインやマップで情報過多にならないように要注意	△

方針3 居心地を高める沿道デザインの誘導

取組の方向性・課題	意見	分類
① ファサード(建物正面外観)のデザインのルールづくり	・ 通りの建物を統一的なデザインにする取組は、どう変わるか期待できる	◎
	・ デザインのルール化を具体的にはどう進め、どう進めどう定めるのか(デザインコード)	△
	・ 制限よりは加点式、文脈重視のルールが必要	△
	・ 沿道のデザイン、建物のデザイン、広告、統一するのは難しい	△

テーマ2 居心地の良い道端づくり

方針3 居心地を高める沿道デザインの誘導

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
② 屋外広告物の色彩・デザインのルール化	・ 屋外広告物の色彩デザインする→松本には工芸作家が作った広告がたくさんある	◎
	・ 心地よい程度をまとめる人	◎
	・ 広告物のルールとてもよいと思うけれどできるのか	◎
	・ 看板がおもしろい	△
方針3全般	・ 統一性は道路の構造物、街路樹などによるほうがよい	◎
	・ 店舗の協力を必ず得ていくこと、出展者へのルール徹底	◎
	・ 質の高い景観とは、具体例、店舗個性の損失	△
	・ 歩いて魅力ある統一感のあるストリートにするには	△
	・ 幅員、滞留スペース、本当に作れるのか	△

テーマ3 水と緑を感じる道づくり

方針1 沿道植栽の戦略的なデザイン～緑の変化と連続性～

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
① 通り全体を貫く統一テーマに基づき植栽計画の策定(エリアごとの特性を踏まえた樹種構成)	・ 植物の選定、環境の変化が大きいので先を見越した選定が必要だと思う	◎
	・ 落葉の管理方法を考える	△
	・ 松本の固有種、在来種、多様性に資するものを →自然共生サイトで調べられる	△
	・ どの程度の規模で緑化できるかで見栄えが違う	△
② 高木・中木・低木の階層的配置による的な緑の演出	・ 高木、中木、低木の階層的配置による立体的緑の演出	◎
	・ 植栽帯があることで事故が防げる	◎
	・ 高木の場合等、落ち葉による清掃の仕方	△
③常緑樹と落葉樹や四季折々に花が咲く樹種の組み合わせによる通年の彩り確保	・ 1年を通して楽しめそうで良さそう	◎
	・ 季節の行事と接続、楽しそう	◎
a 車両通行の視認性確保(樹種選定、剪定管理等での工夫)	・ 歩道において植栽の占める面積が問題となる	△
b 植物の健全な生育と良好な沿道空間を保つための維持管理手法の確立(剪定、灌水等)	・ 花の植栽は管理が大変	△
c 鳥害・病虫害対策(樹種選定、剪定管理等での工夫)	・ 美術館周辺一帯で流していた鳥害対策のタカの声(効果あり) →音楽(とのかけ合わせ)の必要性	◎
	・ 協力できます、野鳥関係・野生動物	◎
植栽計画の策定+緑の演出・植栽デザイン	・ 統一テーマは基づいて緑化、常緑樹を中心に	◎
	・ 理想はこうですが、イメージ湧きません	△
植栽計画・街路樹配置計画	・ ムクドリ、カラス対策(どう付き合う、どう向き合う)	△
立体的な緑の演出と維持管理手法の確立	・ お金をかけてデザイン&定期管理	◎
通年の彩り確保と街路樹配置計画	・ 果樹を植えましょう、通行する人が気軽にいいで食べることができるような樹種	△

テーマ3 水と緑を感じる道づくり

方針1 沿道植栽の戦略的なデザイン～緑の変化と連続性～

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
方針1全般	・ 植栽戦力的デザイン、景観、日陰、いいね	◎
	・ 協議により歩道を自転車が行けるようにできる（自転車通行可の標識があれば）→ただし植栽帯を広げる場合	△
	・ 高、中木を利用したイルミネーション（冬期）	△

方針2 沿道店舗等との協働による緑化推進と維持管理

取組の方向性・課題	意見	分類
① 沿道店舗等による店先緑化の推進	・ 色々な意見はあると思いますが私としては賛同です	◎
	・ 店先に緑があると安心できる、アスファルトの熱も緩和	◎
	・ 店先緑化	◎
	・ 沿道店舗による店先緑化の推進	◎
② 市民・事業者参加型の維持管理の仕組みづくり	・ 参加型の維持管理の仕組みづくり（理由）仕組みがなければいずれ機能不全になる	◎
	・ 持続可能な維持管理組織、市民事業者参加型、住民の意識改革がないと難しい	◎
	・ エクセラン高校園芸部から花苗の購入	◎
	・ 店舗等による協力体制づくり	△
	・ 植栽管理、ムズカシイ、オシツケ	△
	・ 住民自ら管理したくなるグリーンインフラにするべき	△
③ 若い世代との協働による花育プログラムの展開（幼少期から）	・ その仕組み（推進組織、運営団体）をどう作るかが肝	△
	・ 若い世代へのプログラム展開（理由）郷土愛を育む、教育の一助となる	◎
	・ 長い間通りを守っていくためのよい仕組みづくりになりそう	◎
	・ 若い世代との協働 →部活動	◎
	・ 学校のコミュニティスクールとして関わると地域の人との連携ができる	△
b 沿道事業者・地域との合意形成と協働体制の構築	・ 若い世代を中心にセットで園芸に精通する、高齢の方々も、多世代、支え合いの輪、伝統	△
	・ 除草、落ち葉処理を町会へ丸投げしないように	△

テーマ3 水と緑を感じる道づくり

方針2 沿道店舗等との協働による緑化推進と維持管理

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
c 持続可能な維持管理組織・団体の育成・形成(緑化団体、地域ボランティア等)	・ 作った先の管理体制を持続可能に（誰がどのように） →ボランティアのみに依存困難	△
d 教育機関（周辺9校）との連携に向けた調整や協働の仕組みづくり	・ 他の学校はわからないけれど、蟻ヶ崎にはボランティアの部活があるのでできそう	◎
	・ 周辺9校に限らず広く連携、協働のしくみづくりができるとよい	△
店先緑化の推進+制度設計	・ 店舗ごとの取組に差があると統一感などが失われる	△
持続可能な維持管理の仕組み+組織団体の育成	・ 持続可能な維持管理が難しい、若い人がいない	△
花育プログラム+協働のしくみづくり	・ 若い世代との協働による花育プログラム、周辺9校との連携→コミュニティスクールとして関われそう	◎
方針2全般	・ コミュニティ全体との兼ね合いなので、市の方針（教育とも連携）を打ち出していないと厳しい	△

方針3 水の活用と親水空間の創出

取組の方向性・課題	意見	分類
① 水を活かした景観デザインの展開(水盤、せせらぎ、モニュメント等)	・ 親水空間の創出 →ここでやるべきか	◎
	・ 湧水のある個所では活用は大いに賛成	◎
	・ 水を活かした景観デザイン	◎
	・ 高砂通りの魚などきれいな水の川を活かす、蛇川	◎
	・ 水の都松本として観光資源に、だけど魚は捕ってはだめ	△
	・ 松本は水の街、とくにイオン前は宝の水の演出を	△
② 水にまつわる歴史解説等の案内サインの充実	・ free water の看板	◎
③ 地下水を活用した維持管理用給水設備の検討(植栽への灌水、歩道の洗浄等)	・ 湧いている水を有効に活用していけると良い 湧いている箇所は結構ある	◎
	・ 地下水利用、ミストシャワー、熱中症&水やり	△
	・ カスケード、伊勢町通りのような水路があるのもよい	△

テーマ3 水と緑を感じる道づくり

方針3 水の活用と親水空間の創出

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
④ 給水スポット(飲用・散水用)の設置	・ 飲み水にできるかどうか明確だとうれしい	◎
a 松本市の水巡り案内等の取組との連携	・ 下水道のマンホール特色のあるものに (アイデア)	△
	・ 給水ポイントとして案内する	△
b 美術館正面広場を親水空間として活用するための調整	・ 水巡りの案内	◎
	・ 美術館をもっとオープンな設計にする (木と水)	△
c 給水設備の整備・活用に対する沿道事業者の理解	・ 小池町から駅までの間水を活かすことが難しい (自然の地下水) ⇨ 標高600mより低いとでない	△
d 地下水の利用可能性 (水質や水量等) の確認	・ 水の活用、源池地区を中心とした井戸のようなものをとか足を浸すスポット (夏を主として) などを取り入れて	△
	・ 松本は井戸が多いが飲用は無理、使い方をしっかり守らないと問題が発生すると思う	△
	・ ここは扇状地だから大地震が起きると液状化現象が起こる可能性があるとのこと (消防職員談)	△
	・ 井戸の管理はメンテナンスも大変	△
	・ 美術館ができたなら井戸水が出にくくなった	△
	・ 井戸水はどこかで使いすぎると他が出なくなる	△
水を活かした景観デザイン+給水スポット	・ 水を活かした景観デザイン、給水スポット	◎
地下水を活用した給水設備の検討と沿道事業者の協力度解	・ 植栽への灌水、歩道の洗浄、カラスの糞害の洗浄のほかに防火用水としての住宅や建物密集地へぜひ導入してください	◎
方針3 全般	・ 水関係協議会 (管理、ボランティア) をつくる	◎
	・ 方向性は大いに賛同⇨「水のまちづくり」徹底、新しい技術と連携 (信州大学)	◎
	・ 冬流れる水が凍る、滑る対策	△
	・ 水路や井戸も同様	△
	・ 通り全体を通じて表現することは困難 (スポット的になるのでは)	△
	・ 大事なキーワード、あがたの森-水の都	△

テーマ4 芸術・文化が薫る道づくり

方針1 三ガク都を表現する統一的な空間デザイン

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
① 統一感のあるストリートファニチャー(照明、ベンチ等)の統一デザイン整備	・ 統一感のあるストリートファニチャーデザイン整備	◎
	・ 松本らしさ、統一感のあるストリート	◎
	・ 「統一感のあるデザイン整備」そのもの(方向性)は賛同	◎
	・ 統一感のあるストリートファニチャー、松本らしさ気にせず	◎
	・ 芸術文化の統一感には賛成、そのものがない区間は統一のモチーフなどを考えるとよい	◎
	・ 通りを活用して楽しく	◎
	・ ストリートファニチャーがそろうと、すごく完成度の高い道になりそう(協力してみたいです)	◎
	・ 松本らしさとは	△
	・ 新規でストリートファニチャーを制作するより点在するバス停を活用できないか(サイン、ベンチ等をバス停に集約しごちゃごちゃさせない)	△
	・ 通行導線の阻害	△
② エリア特性を反映した舗装デザイン(楽都を表現する音楽モチーフ等)	・ 舗装デザイン 松本らしい	◎
	・ エリア特性を生かした舗装デザイン	◎
	・ エリア特性を反映させた舗装デザインに城下町らしさ	◎
	・ 通りのイメージ、アイデンティティを出す	◎
	・ ストリートアイデンティティを出す	◎
	・ 旧町名、小路名、親町3町、枝町10町、小路町のサイン(城下町らしさ)	◎
	・ 城下町らしさを構築する	△
	・ 舗装デザイン →踏むとピアノで音が出るような仕掛け	△
	・ 舗装デザインのバリエーション	△
	・ 絵を踏む「ふむ」ということには賛同できない(嫌がる人もいるのでは?)	△
	・ 流行はいつか古くなる	△

テーマ4 芸術・文化が薫る道づくり

方針1 三ガク都を表現する統一的な空間デザイン

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
③ 文化施設への誘導を組み込んだ歩道舗装の整備（美術館・芸術館への動線の可視化）	・ 歩道の舗装に美術館、芸術館、あがたの森までの距離や案内を入れてください	△
方針1 全般	・ 文化にはさまざまなジャンルがあるが、松本らしいジャンルにしぼり展開できたらよいと思います	◎
	・ 松本らしさ →クラシックが原点、民芸運動	◎
	・ 統一デザイン（方針3とリンク） <理由>松本＝文化的都市のイメージを強化	◎
	・ 舗装デザイン、案内サインの充実は結構だがtoo muchにならないように注意	△
	・ テーマやデザイン（要素）がごちゃごちゃしすぎると「統一感」から遠ざかる懸念	△
	・ デザインのコンペとかあったら、地域の人とかが協力して創れそう	△
	・ あがたの森通り周辺は文化的な建物や歴史の宝庫です。音楽、民芸運動など意欲的に取り入れられたら良いと思う	△
① 楽都を表現する音楽モチーフのサイン設置(譜面デザイン、松本ぼんぼんの楽譜掲載等)	・ 松本モニュメント、岳・学・楽	◎
	・ 「三ガク都」の中でもとくに音楽。スズキ・メソードや小澤征爾	◎
	・ 流行はいつか古くなる	△
	・ 楽のモチーフ？（岳と学は）切ってよいのか、→三ガク都のモチーフ	△
② 松本の伝統工芸品や文学作品を紹介する解説サインの設置	・ 窪田空穂や土屋文明など松本市にゆかりの歌人、俳人の句や歌や、熊井啓と山崎貴、両映画監督の作品も同様に、金属板のサインでよいので設置をお願いします	◎
③ 岳都を表現する山並みの眺望ポイント案内	・ 東西の山の眺望	◎
	・ 岳都を表現する案内（今はない）	◎
	・ 山並みの眺望、山並みに意識をむける	◎
	・ 岳都を表現したポイント案内が少ない	△
	・ （山岳の）ポイントがあるかどうか、あがたの森通りだけではなくまち全体でやれたらよさそう	△

テーマ4 芸術・文化が薫る道づくり

方針2 松本の歴史・文化を伝える案内サインの充実

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
④ QRコード等のデジタル技術を活用した多言語・多世代対応の情報提供	・ QRコード良さそう、若い人も多く通るし観光客にも伝えやすい	◎
	・ QRコード	◎
	・ 音楽や松本をアピールする動画をQRコード読み込みで見られる	△
	・ ガイドブック、沿道商店とのスタンプラリー	△
	・ 案内板の設置は大変、デジタル活用が必要	△
方針2全般	・ 「三ガク都」を根付かせる仕掛け	◎
	・ 山、クラシック、歴史、民芸、古くからあるものをもっと顕彰	△
	・ 南北の通りとの協働	△

方針3 アートを身近に感じるギャラリーストリート化

取組の方向性・課題	意見	分類
① 小規模なアート・音楽発表の場の点在的配置(壁面アート、オープンギャラリー等)	・ 大賛成、仙台のように音楽フェス	◎
	・ 市民芸術館前でのイベント、コンサートの定期的開催を屋外で開催	◎
	・ 音楽を流す	◎
	・ オープンギャラリー、日常的なアート	◎
	・ 小規模なアート、音楽発表の場	◎
	・ 小規模なアート、音楽発表の場 →ストリートミュージシャンが自由に使える	◎
	・ まのび(店舗の間)を埋められる、音楽発表の場	◎
	・ 発表の場を大切に	◎
	・ ストリートの発表の場などが設けられるとよいと思う	◎
	・ ライブイベント(屋外)	△
	・ 工芸、木工、鉄細工等の展示、市内には腕の良い職人がいることをアピールする場所	△
	・ この通りならではの音楽づくり、アートづくり	△
	・ 愛し続けられるアートを	△
	・ クラフトフェアのときだけでなくクラフトがいつでも感じられるまち	△

テーマ4 芸術・文化が薫る道づくり

方針3 アートを身近に感じるギャラリーストリート化

【凡例】賛同・共感：◎ 提案・課題：△

取組の方向性・課題	意見	分類
② イベント時の演出・装飾の計画的展開(クラフトフェア、セイジ・オザワ松本フェスティバル等との連動)	・ イベント時の演出、いいね	◎
	・ (イベントをするには) コンセントとか、ルールとかが必要	△
	・ 楽都を表現する→ストリートピアノ、ステージ	△
③ 沿道店舗のウィンドウギャラリー化の推進	・ 「ギャラリーストリート化」も結構だが「見せ方」(情報の伝え方)が肝かも	△
c 芸術文化の質を保つための選定基準の策定	・ 芸術文化の質を保つとは何を意味しているのだろうか?	△
方針3全般	・ 常設は難しそう、通り一体となったイベント演出が必要	△
	・ 沿道事業者のモチベーション(参加意欲)を誰がどう高めるか	△
	・ 学については足りない、学習スペースなどどうか	△
	・ アートだと税金の使い道としてどうかと(苦情はよくあること)、音楽だとうるさいと苦情もくるのでは	△

(3) 全体での意見共有（テーマごとのリレー報告）

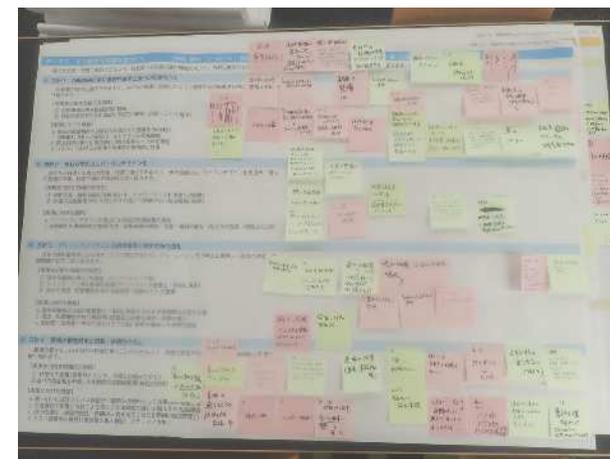
【テーマ1】より安全で快適な道づくり

道路整備において基本である「安全」に関わる方針に賛同が多い。一方で、優先順位や具体的なスケジュールについて、計画ではまだ見えてこないとの意見が出された。

方針1の「自転車通行帯の連続性確保と通行の安全性向上」では、自転車通行帯を確保していくことへの共感の度合いが非常に高い一方で、実現に向けた課題として、近年の道交法の改正等にあたり、自転車ユーザーに対する周知や、標識をつける、自転車用の信号をつけるなど具体的な対策が少し不足している。合わせて、車や歩行者のマナーに対しても意見があった。

方針2の「歩行空間のユニバーサルデザイン化」では、歩道の幅を広げるだけでなく、デザイン的にもっと歩きやすくすることや、タイルやインターロッキングの大きさを考慮しキャリーケースを引く方など安全性の確保することが必要ではとの意見が出された。横道に対しては大型緊急車両が通りやすい角のデザイン等の意見もあった。

方針3の「グリーンインフラによる雨水管理と浸水対策の強化」では、特に浸水対策を強化に対し共感が多く、実際に浸水対策をいつ、どこまでやるのかという意見が出された。また、夏場の暑熱対策として、水場や湧水なども利用できるという意見、グリーンインフラを活用した鳥との共存についての意見があった。夏場の快適性向上という視点の一方で、除雪など冬場の対策について記載がないため、例えば湧水のスポットを活用し雪を流すシステムなどができればいいという意見も出された。



【テーマ2】居心地の良い道端づくり

一番意見として多く出たのは、方針1「居心地の良い滞留空間づくり」。オープンスペースを活用したポケットパーク整備はぜひやった方がいいという意見が出された一方で、ただのポケットパークではなく、例えば市民農園的な機能をつけるとか、人が来る空間にしていくためには市民参加で空間づくりを行えるといった課題、提案の意見もあった。

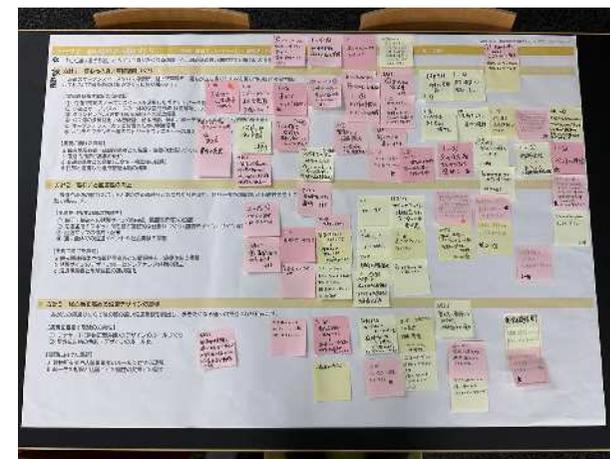
また、方針1の中で一番意見が多かったのが、④バス停の多機能化。それにより、このテーマ2だけではなく、他のテーマの内容もそこに当てはめていくことができるのではと、かなり賛成の意見が出された。ただ、課題の意見として、そういう場所を空間としてどう確保していくのか、運用上バスを待っている人とそうでない人をどう区別するのかという意見が出された。

あとは、県産材によるストリートファニチャーの活用もぜひやってほしいと意見があった。

方針2「賑わいと回遊性の向上」では、案内サインの設置や回遊マップの配布に関して、特に課題提案の意見が出された。ぜひやっていった方がいいとは思いますが、コンセプトや何のためのという目的を明確にしないとつくただけになってしまうのではとか、情報が多すぎても良くないなどの意見が出されている。

方針3「居心地を高める沿道デザインの誘導」では、ぜひやっていった方がいいという意見が出された一方で、どういうレベルでお願いレベルなのか、ある程度規制的に制度化していくのかという難しさもあるため、しっかりと検討していく必要があるとの意見が出された。あがたの森通りの現状を見ると、いろいろな時代の様々なデザインもあり、それらを否定するのではなくそれもあがたの森らしさ、通りらしさとして誘導していくというのは結構内容的にも難しいという意見。

あと全体的な意見として、こうした取組には、ある程度の幅員が必要であり、民有地の有効活用という点も含めて、そういうスペースを本当につくれるのかということころはよく検討した方がいいとの意見が出された。

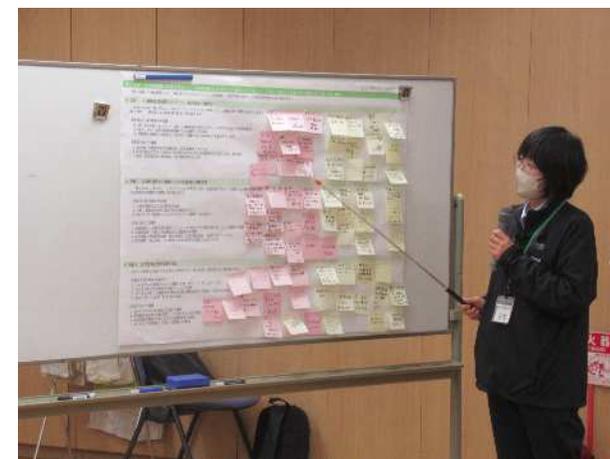


【テーマ3】水と緑を感じる道づくり

方針1「沿道植栽の戦略的なデザイン」について、一年を通して緑がある四季の花が咲くといった緑のある通りは非常にいいとの賛同の意見が多く出された。落ち葉の問題に対しては、常緑樹を取り入れることや、行政のサポートいただきながら対応できればとの意見が出された。落葉期の冬場は風景が寂しくなるため賑わい創出にもイルミネーションができるとよいという意見もあった。鳥害対策については、イタチごっこではあるが、鷹の声を流したらいなくなったという意見や、野鳥の生態等に関して詳しいからアドバイスできるよという意見もいただいた。

方針2「沿道店舗等との協働による緑化推進と維持管理」では、店先の緑化について賛同する意見が多かった一方で、押し付けにはならないような柔軟な仕組みづくりが必要との意見が出された。維持管理はやはり一番難しい問題で、それも地域だけに頼るだけでなく、行政の協力を得つつ、若い世代に早いうちから緑と親しむ機会を設けながら協働、花育を進める、地域の高齢者の方々と一緒にコミュニケーションを図れる場にもしていけるといいとの意見が出された。通りの近くだけでなく市内で幅広く学校団体の協力を募りながら取り組んでいけるといいとの意見も出された。

方針3「水の活用と親水空間の創出」では、あがたの森側、第三地区の方は本当に水が豊富に出ているとのこと、ただそれが駅側に標高が下がっていくとなかなか水が出なくなるため、たくさん出ているところでは、植栽の水やりや、親水空間という形で活用できるとよいとの意見が出された。松本は水のまちなので、それを通りから伝わるとよい。ただ湧水や井戸水も飲めるものかどうか、安全面を明確にしていくなければならないことから、正しい発信をしつつ、活用の工夫として夏場は足を冷やす「足水」として、地域の防火用水としてとの意見も出された。また水の活用は、水の出やすいところと出にくいところの差や、使い過ぎにより出にくくなったりすることも踏まえて、通り全体的にというよりも、スポット的に取り組むものだろうとの意見が出された。



【テーマ4】芸術・文化が薫る道づくり

方針1「三ガク都を表現する統一的な空間デザイン」では、統一感のあるデザインを整備していくことに対して、ストリートアイデンティティ、通りの個性みたいなものをしっかり出していこうということでおおむね賛成との意見が多かった。一方で、個性とは、松本らしさとはなんだろうとの意見もある。松本らしさとは、例えば音楽はクラシックが原点だとか、民芸運動とか、古き良きものを大事にしていくことが、松本らしさにはあるのではないかとということ。舗装やその他の案内等のデザインについては、いろんな要素を詰め込みすぎてしまうと逆に統一感から遠ざかってしまうのではとの意見も出された。集約させるなどして上手に全体の統一感を出しながら、それぞれの個性を出すつくり方をしていくべきだろうとの意見。あとは城下町らしさということも出していけたらよい。芸術館や美術館など文化施設までの距離を舗装デザインに加える提案もあった。全体を通して、統一的な空間デザインについてデザインコンペを行ってはどうかとの提案もいただいた。

方針2「松本の歴史・文化を伝える案内サインの充実」のうち、楽都を表現する音楽モチーフのサイン設置については、音楽だけじゃなくて、三ガク都でという意見が出された。一方で、三ガク都の中でも音楽は松本らしさが一番出ているのではないかと意見や、その音楽を発表できる場があった方がいいとの意見が多く出された。山並みの眺望を伝えるサインについても概ね賛成だが、眺望ポイントが通り沿いにそれほどあるだろうか、むしろまちなか全体で検討した方がいいのではというような意見もいただいた。サインに関しては、そのQRコードをもっと効果的に活用する。まち歩きしながらQRコードでアクセスし、音楽を聞けるとか、まちをアピールする動画を見ながら歩けたらいいのではとの意見が出された。

方針3「アートを身近に感じるギャラリーストリート化」では、オープンギャラリーなどを通して日常的にアートに接することができるような場づくりやライブイベントの開催、工芸のアピールができると賑わうのではとの意見が出された。ギャラリーストリートの見せ方、情報発信の工夫が重要であるということ。また、発表や発信の場が沿道にあるとよいが、そういう場所を使用するためのルールはつくるべきであるとの意見をいただいた。ただし、アートに税金を使うことはどうなのかという意見もあり、そういう発表の場、賑わいの場には、大方、共感いただいている。

